

【生薬名】 艾葉 *ARTEMISIAE FOLIUM*

【起源植物】 ヨモギ *Artemisia princeps*  
ヤマヨモギ *A. montana*



【科名】 キク科Compositae

【別名】 餅草(もちぐさ)、醫草(いぐさ、名医別録)、よむぎ

【薬用部分】 全草

【主成分】 精油(シネオールなど)、タンニン、酵素、多糖類、ビタミン、ミネラル  
インターフェロン・インデューサー(インターフェロンを増やす物質)

【薬性】 気味は苦辛温、帰経は肝脾腎に属す

【効能】 ●温経・出血・散寒・除湿・止痛

●種々の出血、健胃、貧血、下痢、強壮に、5～25gを煎服

●芎帰膠艾湯は各種の出血や、冷え症・貧血やこれらが原因の不妊症に飲むと良いし、妊娠後も続服させると胎児にも良い

●風邪や頭痛にも同様に服用

●乾燥葉300g(生は500g)を入れて水から風呂を沸かして入浴すると精油成分が体を芯から温めるので、腹痛、腰痛、リウマチ、痔痛によい

●1回50gを濃く煎じた液を入れて入浴しても良い

●透析の痒みにヨモギローションを塗る、艾葉50gを水1Lにて20分煎じたもの

●草餅に入れておいしく食べられている

●老人性皮膚瘙癢症には艾葉の薬湯がよい 1日10g、水800ml → 400ml

●胃炎、胃潰瘍に、解毒作用、動脈硬化や高血圧の予防にも利用される

●下焦の虚寒に対する薬で、寒冷腹痛、経寒不調の様な症に用い、すべて寒を散じる効がある。

●また能く止血の作用があり、崩漏に多く用いるが、これもまた虚寒に属するもので、経を温め、血を止める効は炮姜と同じである

【出典】 ●艾葉 温平、邪を殴ち鬼を逐い、漏血、安胎、心疼即ち愈ゆ。(薬性歌)

●艾は疾を弋め得るもので、久しく経たものほど良い。故に文字は艾に従ふのだ…。醫家これを用ゐいて多くの病に灸するから灸草といふ…凡そ艾葉を用いるには、久しく置いた古いものものを周治して細軟にして用いねばならぬ…(本草綱目)

●あらゆる病に灸する。煎じて用いれば、吐血、下痢、下部の腫瘍、婦人の漏血を止め、陰氣を利し、肌肉を生じ、寒風を辟け、子を儲ける。(名医別録)

●帯下を治し、霍乱、転筋、病後の寒熱を止める(日華子本草)

【備考】 ●もぐさの原料

【処方例】 ●芎帰膠艾湯、柏葉湯、艾附暖宮丸、四生丸